

## <第6回「震災対策技術展」宮城>

第6回「震災対策技術展」宮城が8月6日～7日に仙台駅近くのAERビルで開催されました。この2日間に3,486名が来場し、セミナーの聴講者総数は1,414名を数えました。

開催セミナーのうち、東北大学災害科学国際研究所 越村俊一教授による基調講演『災害の教訓、そして津波防災の新たな地平』では、東日本大震災の教訓を活かし、我が国の津波防災対策は大きく変わらなければならない事、震災の教訓とは何であったか、幾度となく津波災害を乗り越えてきた先人の知恵、そして来る国難災害を生き延び、乗り越えていくための課題があり、これらを最新技術の動向を踏まえた津波防災・減災・レジリエンスのあり方についてなどが紹介されました。

また、当協議会理事長の大保は『緊急津波避難システムについて』と題して講演を行いました。東日本大震災で発生した大津波は、東北沿岸の住民の尊い人命を奪いました。その原因は、過去に経験した事のない大津波が襲来した事、気象庁の津波警報が住民に伝わらなかった事等があります。これらの問題を解決するために、東北大学今村教授のグループと、緊急地震速報、津波警報を利用して携帯電話などの移動媒体にメールで適切な避難場所・安否情報を伝えるシステムの開発背景、概要、社会実装に向けた取り組み、さらに企業・地域住民を対象とした津波避難訓練を紹介しました。



聴講者より

- 他の地域（知らない地域、訪れた地域）でも避難場所の情報が得られるのか？
  - メールをこちらから受け取りに行かなければ確認できない設定の場合は、リアルタイムで情報を受け取れないのでは？
  - 携帯を常備していないケースもある（特に海水浴客など）その場合はどうするのか？
- などの質問があり、津波避難への関心の高さが伺えました。